

式 辞

満開の桜が皆さんの入学を祝福するような、陽春まぶしい季節を迎えました。
本日ここに、福島県知事 内堀雅雄様をはじめ、
ご来賓の皆様のご臨席を賜り、令和二年度福島県立橋高等学校の入学式を挙
行できますこと、関係の皆様には厚く御礼申し上げます。
只今、入学を許可された二八〇名の皆さん、入学おめでとうござい
ます。
皆さんの入学を、学校をあげて、心から歓迎いたします。

皆さんが挑んだ高校入試は、今回新しい制度の下で実施されました。
新制度への不安もあり、出願に当たっては大きな「決断」や「覚悟」が必要
だったことと思います。前期選抜直前には、新型コロナウイルス感染拡大防
止のために、学校が休校となることも報じられ、動揺も大きかったのでは
ないでしょうか。

さらに、選抜試験から発表までの期間が長かったこと、その間学校が休
校だったこと、中学校の卒業式が例年通り行えなかったことなど、合格発
表の日まで、どんなにか不安な日々を過ごしたのではないかと、胸が痛
みます。

しかし、皆さんは、見事にこれらの困難を乗り越え、本日の入学式に
臨んでいます。
今日は皆さん二八〇名が、橋高等学校第一学年の生徒として第一歩を
踏み出す記念の日です。

ご家族の皆さんやこれまで支えてくださった多くの方々への感謝の
気持ちを持って、新しい一歩を踏み出してほしいと思います。

さて、今日から皆さんは高校生になりました。
高校生活では、より能動的に、自分から行動することが求められます。
そして、自分のことだけでなく、他の人や、世の中のこと、世界のこ
とを、自分との関わりとしてとらえ、社会に出る準備をする大切な期
間でもあります。
一日一日を大切に、誠実に生き、人の痛みや気持ちがわかる人間に
なってください。
そして、「橋文化」と呼ばれる本校ならではの校風を思う存分体感し、
更に素晴らしい橋高校と一緒に創りあげ、皆さんの夢の実現につな
げていきましょう。

保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。
私ども教職員は、皆様にとってかけがえのない存在であるお子様の
教育に、全教職員一丸となり、誠意を持って、お子様の成長と進路希
望実現のために全力を尽くしてまいります。

今日、入学式を迎えたお子様の姿をまぶしくご覧になったことと思
います。
親にとって、我が子はいくつになっても子どもです。
親として、いつまでも手をさしのべていたい。それは素直な感情だ
と思います。
私自身の子育てを振り返ってもそう思います。
しかし、親の役割や幸せを考えたとき、子どもが、自立した一人
前の人間として、社会人として成長すること、これこそが最も大切
なことだと思います。
ときに背中を押し、ときに立ち止まり、見守り、支えながら、少
しずつ、少しずつ、手を離していく、そんな、3年間を、一緒に歩
んでまいりましょう。
毎日、一歩ずつ成長して、大人になっていく子どもたちの姿を、
一緒に、楽しみにしてまいりましょう。

保護者の皆様には、どうか本校の教育について、深いご理解とご
協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本日ご臨席を賜りましたご来賓の皆様を重ねて感謝を申
し上げますとともに、新入生の皆さんの橋高等学校での充実した生
活を願って式辞といたします。

新入生の皆さん、頑張ってください。

令和二年四月八日

福島県立橋高等学校 校長 加藤知道